

第五十二回
帝國議會衆議院

登錄稅法中改正法律案外三件委員會議錄(速)第九回

昭和二年二月二十一日(月曜日)午前十時四十八分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 武藤 金吉君

理事 奥村 千藏君

理事 高橋熊次郎君

理事 清水 長郷君

木檜三四郎君

小西 和君

神部 爲藏君

淺川 浩君

佐藤富十郎君

斯波 貞吉君

堀切善兵衛君

長田 桃藏君

木暮武太夫君

吉良 元夫君

丹下茂十郎君

増田 義一君

三月十七日營業收益稅法中改正法律案(湯淺凡平君提出)、清涼飲料稅法中改

正法律案(湯淺凡平君提出)、不在地主稅法案(清瀬一郎君外一名提出)ノ審査

ヲ、同月十九日登錄稅法中改正法律案(猪野毛利榮君外三名提出)、關稅定率

法中改正法律案(小池仁郎君外十八名

提出)、關稅定率法中改正法律案(東武君外十二名提出)、果物罐詰原料砂糖辰稅法案(中村嘉壽君提出)ノ審査ヲ孰レモ本委員ニ付託セラレタリ

出席政府委員左ノ如シ

内務省地方局長 潮 恵之輔君

大藏省主稅局長 黒田 英雄君

委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ

清瀬 一郎君 猪野毛利榮君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

登錄稅法中改正法律案(政府提出)

印紙稅法中改正法律案(政府提出)

砂糖消費稅法中改正法律案(政府提

出)

○武藤委員長 是ヨリ開會致シマス、今

日マデノ委員會ハ登錄稅法中改正法律

案、印紙稅法中改正法律案、砂糖消費稅

法中改正法律案、關稅定率法中改正法

律案ノ四件デアリマシタガ、政府ヨリ

商事非訟事件印紙法中改正法律案ガ提

出ニナリマシタ、其他營業收益稅法中

改正法律案、清涼飲料稅法中改正法律

案、是ハ湯淺凡平君ヨリ提出ニナリマ

提出)、關稅定率法中改正法律案、東武君外十二名提出、果物罐詰原料砂糖辰稅法案ハ中村嘉壽君提出、此諸案ヲ當委員君外三名提出)

關稅定率法中改正法律案(小池仁郎君外十八名提出)

關稅定率法中改正法律案(東武君外十二名提出)

關稅定率法中改正法律案(猪野毛利榮君外三名提出)

果物罐詰原料砂糖辰稅法案(中村嘉壽君提出)

及關稅定率法中改正法律案、東武君外十二名提出、果物罐詰原料砂糖辰稅法案ハ中村嘉壽君提出、此諸案ヲ當委員會ニ付託ニナリマシタカラ、是又一括致シマシテ隨時提出者ノ説明ヲ承ルコトニシタル思ヒマス、又説明ヲ承ラヌデモ一括シテ政府委員等ニハ質問ヲ致シマシテ、審査ノ進行ヲ圖リタイト思ヒマス、左様御承知ノ上質問ヲ續行セラレタイト思ヒマス、尙又登錄稅法、印紙稅法、關稅等ニ付テハ大分質問モ濟ミマシタガ、マダ少シク殘フテ居ル點ガアルヤウデアリマス、ソレカラ山本慎平君、村山喜一郎君、佐藤富十郎君、山本芳治君、沼田嘉一郎君其外ニ高橋君、木暮君等ノ質問モ亦残フテ居リマスガ、今日ハ其殘フテ居ル分ヲ御願申シタイト思ヒマス、此際ニ不在地主稅法案ノ説明ヲ清瀬君カラ承ルコトニシマシテ當委員會ニ審査ヲ付託セラレタガ、此際ニ不在地主稅法案ハ此院ニハ今マデ提出セラレナイ、

○清瀬一郎君 説明ノ機會ヲ與ヘラレマシテ感謝致シマス、此不在地主稅法案ハ此院ニハ今マデ提出セラレナイ、

登録稅法中改正法律案(政府提出)
印紙稅法中改正法律案(政府提出)
砂糖消費稅法中改正法律案(政府提出)
關稅定率法中改正法律案(政府提出)
商事非訟事件印紙法中改正法律案(政府提出)
清涼飲料稅法中改正法律案(湯淺凡平君提出)
不在地主稅法案(湯淺凡平君提出)
登錄稅法中改正法律案(政府提出)
改正法律案(猪野毛利榮君外三名提出)
提出)、關稅定率法中改正法律案(小池仁郎君外十八名提出)
關稅定率法中改正法律案(東武君外十二名提出)
登錄稅法中改正法律案(猪野毛利榮君外三名提出)

初メテノ問題デアリマスガ、一寸此構成ヲ御聽キ願ヒタイノデアリマス、是ハ不在者即チ其市町村ニ居リマセヌ地主ニ向ツテ、戸數割同様ノモノヲ課稅シ得セシメテ、以テ町村ノ財源ノ一部ヲ補充致サウト云フ考デアリマス、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマスガ、今迄デモ多クノ町村ニ於キマシテハ、戸數割ト云フコトハ餘程重大ナ負擔デアリマス、又地方ノ農村アタリデ一番苦情ノ多カツタ問題デアルコトハ御承知ノ通りデアリマス、本年ノ四月一日カラシテ新シイ地方稅制ノ體系ガ日本ニ適用サレマスルガ、ソレニ依リマスルト尙ホ此戸數割ト云フモノガ農村ニ於テハ重大ナ任務ヲ負擔スルト思ヒマス、何故カナレバ從前矢張町村ノ財源デアリマシタ所得稅附加稅ト云フモノハ、全部之ヲ府縣へ移シテシマツテ居リマス、是ガ全國デ五千萬圓位ノモノデアッタノガ府縣ニ行ツテシマフ、去ル代リニハ府縣デ取ツテ居ツタ戸數割ハ之ヲ町村ニ委譲ジテ居リマス、是ハ前議會デ稅制委員ノ御審査ノ上決ツタコトデアリマシテ、是モ一つノ體系トシテハ宜イノデアリマスガ、サウシマスルト町村内ニ於テ戸數割ヲ負擔スルト云フコトハ是ハ重要ナコトニナリマスルガ、今日ノ現狀カラ申シマスルト、町村内ニ在リマスル土地殊ニ田地田畠、ソレナドガ町村ニ住マナイ人ニ依テ所有サレテ居ルモノガ隨分アリマス、私ハ自分ノ力

デ調べハ能ウ致シテ居リマセヌケレドモ、二三ノ町村デ調べマシタ所ガ、其町村ニ住マナイ人ノ持ツテ居ル田地ノ面積ハ矢張五分ノニマデ位ニ當ツテ居ルヤウデアリマス、所ガ其町村デ以テ施行スル設備、例ヘバ道路トカ、橋梁トカ、治水トカ云フ風ナモノハ、矢張此不在地主町村ニ住ンデ居ラヌ人モ均霑致シテ居ル、是等ノ仕事ヲスル主ナル財源ガ、是カラ戸數割トナリマスト、戸數割ハ申ス迄モナク戸ニ課スルモノデ、其町村ニ住ンデ居ラヌ獨立ノ生計ヲ營マヌ、斯ウ云フ人ニ對シテハ掛け得ナイノデアリマスカラ、貧弱町村即チ其町村内ノ者ガ田地ヲ持タヌヤウナ町村ニナル程益戸數割ハ多クナル、幸ニ富裕ナ町村、不在地主ノ少イ所ハ餘リ問題ヲ生ジマセヌガ、貧弱ナ町村ニナリマス程尙更戸數割ガ多クナルト云フ反比例ノ状態ヲ呈シテ居リマスカラ、茲ニ此不在地主ニ對シテ課稅ヲシタイ、斯ウ云フ考ガ起ツタノ、デアリマス、所ガ是ガ比較的簡單ニ參リマス譯ハ、此法律ハタゞタニ箇條デアツテ、實ニ簡單デアリマスガ、極ク簡單ニ之ヲ課稅スル譯ト云フモノハ、戸數割ノ法規ガ昨年ノ議會デ以テ決ツテ、今年カラ施行サレマスガ、ヲ削除シテ、基本ヲタツタニシニ取ヅテ居ル、基本ハ町村内ニ所有ノ財産即チ資産ト資産カラ生ズル所得、此ニツヲ以

テ戸數割ヲ掛ケテ居リマスカラシテ
不在者ニアツテモ其町村内ニ在ル資産
ト云フモノヲ一ツ押ヘテ、ソレカラ又
其資産カラ生ズル所ノ所得ヲ捉ヘテ課
税標準ヲ作リマスト、戸ヲ構ヘテ居ル
者ト略同様ナ標準デ以テ課税ガ出来ル
ノデアリマス、又モウ一ツ便利ナコト
ハ、今度戸數割ハ法律第二十四號第
十二條ニ書イテアリマスガ、ソレニ依
ルト、二ツ以上ノ町村ニ戸ヲ構ヘテ居
ル人、ソレニ付テハ各町村ニ持ツテ居ル
資産ヲ押ヘテ、別々ニ二箇所デ掛ケル
コトヲ新法デ認メテ居ル、是等モ不在
地主ガ居ル所ノ町村ハ其町村内ニ有ス
ル財産ニ依テ戸數割ヲ掛ケル、居ラヌ
所ノ町村モ其町村内ニ在ル財産ヲ捉ヘ
テソレニ戸數割ヲ掛ケル、斯ウ致シマ
スト兩方デ分割シテ戸數割ヲ掛ケルヨ
トハ、簡単ニ進用ガ出來ルノデアリマ
ス、ソコデ此不在者ニ課税スルナド、
地主ソレ自身ガ重イ課税金ヲ出スカト云
云フコトハ、社會主義者ノ言フコトノ
ヤウニ見エマスケレドモ、然ラバ不在
フニサウデナイ、一箇所デ以テ集メテ
大キナ戸數割ヲ掛ケルヨリモ、財産ノ
所在地デ別々ニ掛ケルノデアルカラ、
モ分ラヌ、戸數割ハドウシテモ累進ス
ルカラシテ、五ヶ所デ持ツテ居ル其田地
一町ヅ、ニ五ヶ所デ掛ケルノト、今迄
通リ一ヶ所デ五町ノ田地ヲ持ツテ居ル

ト云フノデ、之ヲ集メテ戸數割ヲ掛ケラル、ノト比較スルト、場合ニ依テハ多少輕クナシテモ決シテ迷惑ヲ懸ケズ、貧弱町村ニ向テモ相當ノ財源ヲ與ヘルコト、考へマスカラ、此立案ヲシタノデアリマス、尙ホ此法律ハソレダケヲ目標トシテ居ルノデアリマセヌガ、茲ニ一ツ御著眼ヲ願ヒタイノハ斯ウ云フコトガアル、此都會地ノ附近ニ能ク工場地帶トデモ申シマスカ、私共ノ住ニモ「ビル」會社ガ在ル、斯ウ云フ大キナ會社ノ所在地ハ從來ドウシテ財政ヲヤツテ居タカト云ヘバ、其會社ノ所得税ニ對シテ所得稅附加稅ト云フモノヲ取ツテ居リ、ソレデ以テ町村ノ財政ガ行ケタノデアリマスルガ、今回ノ改正地方稅則ニ依テ、所得稅附加稅ガ府縣ニ納マルト云フコトニナリマスルト云フト、其財源ガ無クナシテ來ル、而シテ會社ハ獨立ノ生計者デモナク、戸ヲ持ツモノデモアリマセヌカラ、會社ニ戸數割ヲ課ケルト云フ譯ニハ參リマセヌ、此法律ガナカツタラ今年四月カラ、彼ノ工場地帶ニ於ケル町村ト云フモノハ、相當財源ヲ失フモノト考へマス、ソレ等ニ向テモ矢張會社營業所ニ於ケル財產ト云フモノヲ町村内ノ資產ト見マシテ、之ニ戸數割準用ノ課稅ヲナスコトヲ得ト云フコトニナリマスルト、此

キ問題ダト思ヒマス、私ノ起案致シタ
自分ノ考ハ、唯電燈會社デアリマスレ
バ、發電所ヲ持ツテ居ルトカ、大キナ「モ
ーター」トカラ持ツテ居ル、其發電設備ト
カ或ハ「モーター」トカ云フモノハ、土
地家屋以外ノ財產ト、斯ウ云フ考デ掲
ゲテ居リマスノデ、貴方ノ今御話ノ町
村内ヲ通フテ居リマス電柱トカ電線ト
カ、其處ヲ通過シテ居ル汽車ノ線路ト
カト云フモノハ私ハ實ハ考ノ中ニ入レ
ズニ居リマシタガ、若シモソレ等ヲ考
ヘテ資產ニ相當スルモノデアルナラバ
課稅シテ宜シイガ、ドウモ町村内ニ鐵
道ガ通フテ居ル、ソレヲ資產ニ見積ツテ課
稅スルコトモ如何カト思ヒマスガ、立
案者ノ考ニハ今ノ二ツノ事ハ這入フテ
居リマセヌ、文字ノ如何ニモ不完全ナ
ルコトハ貴方ノ御指摘ナサッタ通リデ
アリマス

ハ幾分力緩和サレテ來テ居ル、一言ニシテ之ヲ要約致シマスレバ、御示ノヤウナ案デアリマスト今直ニ御同意致スコトハ遺憾ナガラ出來兼ルノデアリマス、課税スルト云フコトニナリマスレバ、今少シク考究ノ餘地ガアルデハナイカト考ヘマス、ソレカラ先程私ハ本席ニ不在シテ居リマシテ直接伺ヒマセヌデシタガ、色ニ本案ニ付キマシテハ御提案者ノ方ニモ御心配ガアルヤウデス、唯單純ニ此法文ヲ拜見致シマスト、於テモ戸數割ヲ取ラレル、同一人ニテ二個ノ戸數割ヲ取ラレルコトニナリマスノデ、サウナリマスト其負擔ノ關係モ餘程考ヘテ見ナケレバナリマセヌ、併シ御説明中ノ或ハ分割シテモ宜シイト云フヤウナコトガアツタヤウニ承リマシタガ、ソレモ或ハ適切ナ御意見デハアルマイカト考ヘル、ソレ是レ考ヘ合セマスト、洵ニ遺憾デゴザイマスガ、本案ニ對シテ直ニ御同意ヲ申上ゲルト云フコトハ困難ト存ジマス

○高橋委員 關聯スル問題デアリマス
カラ内務當局ニ伺ヒマスガ、從來ノ法
人建物稅ト云フモノト、ソレカラ改正
ノ家屋稅ニ依テ賦課サレル割合ト云フ
モノハ、ドンナ割合ニナフテ居リマスカ
○潮政府委員 御答致シマス、家屋稅
ヲ布キマス際ニ參考書ニ依テ御目ニ懸
ケテ置キマシタガ、仰セノ法人建物稅
及建築稅、斯ウ云フモノハ雜種稅トシ
テ從來取フテ居リマスモノハ家屋稅ト
性質ガ重複スルナラバ廢シタイト申シ
テ居リマス、建物稅ト申シマシテモ問
題ニナリマスノハ、恐ラク私法人建物
稅デアラウト存ジマスガ、サウ云フモ
ノハ鬼ニ角性質ト致シマシテハ家屋稅
デゴザイマスカラ、家屋稅ヲ一般ニ施
行致シマスレバ私法人建物稅、之ニ類
スル稅ハ廢止スルコトニ運ンデ居リマ
ス、唯其割合ト云フコトニナリマスト、
割合ハ各團體ノ都合デ此方カラ決メル
譯ニハ參リマセヌ、原則カラ申シマス
レバ家屋稅ニ對シテ一律ニ課率ヲ決メ
マシタナラバ、矢張私法人建物ニ對シ
テモ家屋稅トシテ將來ハ貨貸價格、當
分ノ間ハ構造ナリ其他特別ノ賦課方法
ヲ認メマシテ、之ヲ賦課シテ行クト云
フ外アリマセヌ、是モ家屋稅ノ性質ニ
依テ家屋稅ヲ賦課シマス以上ハ、法人
ノ所有デゴザイマセウトモ、個人ノ所
有デゴザイマセウトモ、個人ノ所

八

○堀切委員　此提案ノ御趣旨ニ付テハ
吾ニ同感ノ點モアルノデアリマス、先
程清瀬君カラ御説明ガアツタ通り、各町

村ナドニ於テ不在地主ノ數ハ五分ノ二位アリハセヌカト云フ御話ガアリマシタガ、内務省トシテ其邊ノ御調査ハアリマセヌカ、殊ニ近年提案ノ趣旨ノ如ク地方ノ村ナドニ於テ非常ニ戸數割ガ餘計ニナツテ來ル、之ヲ免レル爲ニ都會地ニ移轉スルト云フ風習ガ非常ニ激シクナツテ居ルヤウニ私ハ感ズル、是レハ餘程考慮ヲ要スル問題ダラウト思フ、清瀬君ハ自分ノ手許デハ十分調査ガ出來ナカツタト仰シャル、御無理ハナイト思ヒマス、内務省ニ於テ不在地主ノ割合ガ御見當ガ付イテ居ルナラバ伺ヒタイノデアリマス

○武藤委員長　此案ニ付テハ質問ハア
リマセヌカ——ソレデハ各案ニ對スル
大體ノ質問ヲ續行致シマス、高橋熊次
郎君

○高橋委員　私ハ大臣ノ御説明ヲ承ラ
ナケレバイケナイト云フコトヲ申上ゲ
テ置キタインデアリマスケレドモ、大
臣ハ貴族院ノ豫算會議ニ御出席トノコ
トデアルカラ、黒田政府委員ノ責任ヲ
以テ御答ノ出來ル範圍内デ應答ヲ致シ
タイト思フノデアリマス、此稅制ノ問
題ハ數字ノ問題バカリデナク、又技術
上ノ方面バカリデナク、政策ニ重大ナ
ル關係ガアルノデアリマス、政策ニ關
係スルコトハ大臣ヨリ承ラナイト、ド
ウモ吾々ハ之ヲ諒トスル譯ニハ行カヌ
ノデアリマス、ソレデ先日モ登錄稅ト
相續稅トノ關係ニ付テ色ニ質問ヲ致シ
タノデアリマスケレドモ、ソレニ對シ
テ明快ナル御答辯ガナカツタ、殊ニ相續
稅制定當時ニ於ケル當局ノ方針ト、今
回登錄稅改正ノ跡ヲ見マスルト云フト、
非常ナル齟齬ヲ來シテ居リ、當時ノ立
法趣旨ト云フモノヲ政府デハ何等考慮
ノ中ニ入レテ居ラナカツタト云フヤウ
ニ思ハレルノデアリマス、口ノ上デハ
當時ノ事モ考慮致シタト云フモノヲ參酌
シテ居ラナカツタコトガ暴露サレタノ
デアリマス、ソレデ私ハ此事ニ付テ尙
ホ十分御考慮ノ上御説明ヲ承ルコトニ

シテ、前回ハ保留致シテ置イタノデア
リマスガ、此前吾ミガ疑問トシテ居リ
マシタ所ハ、政府ハ相續稅ノ逋脱ヲ免
レシメンガ爲ニ、今回登錄稅ノ現行法
第二條第三號、改正案ノ二條ノ二號ト云
云フモノ即チ贈與ニ對スル登錄稅ト云
フモノヲ、千分ノ六十カラ千分ノ四十
五ニ下シタノデアル、相續稅制定當時
ノ二十二條、現行法ノ相續稅二十三條
ト云フモノヨリ土地並ニ船舶ト云フモ
ノヲ除外シタト云フノハ、登錄稅ニ於
ケル課稅率ヲ高ムルコトニ依テ其逋脱
ヲ防ギ得ルガ爲ニ、之ヲ特ニ二十三條
ヨリ除外シタト云フノデアル、ソレニ
モ拘ラズ今回ハ、贈與ノ登錄稅ヲ低下ス
ルト、是ガ爲ニ刺激サレテ、相續稅ヲ逋
脱スルト云フヤウナ行爲ハ、從來ハ賣
買ノ形式デ取ルモノガ多カツタガ、今度
ハ贈與ノ形式デ取ルモノガ多クナル、
斯ウ云フヤウナコトニ解釋サレルヤウ
ナ御答辯ノ外ハ承リ得ナカッタノデア
リマス、吾ミハ其御答辯ノ跡ヲ見マス
ト、現政府ニ於カレマシテハ相續稅ノ
逋脱ハ之ヲ登錄稅デ防グト云フ觀念
ト、登錄稅ニ於テ現行法第二條ノ第三號
第四號、改正案ノ第二號第三號、即チ
賣買ノ形式ニ依ルモノト贈與ト云フモ
ノト、其相互間ノ關係ノミヲ考慮サレテ
之ヲ直ニ相續稅ノ關係ニ及ボサレタヤ
ウニ思ハレル、斯ウ云フ錯誤ニ陥リタト
云フヤウナ事實ガ、念ノタメ速記録ヲ
讀ミマシテモ、吾ミノ頭ニ明ニ浮ブノ

○黒田政府委員 大藏大臣ハ只今貴族院ノ豫算總會ニ出席シテ居ラレマスカラ、親シク御答辯申上ゲルコトノ出來マセヌノヲ遺憾ト思ヒマス、只今高橋君カラモ御話ガアリマシタガ、大臣カラモ私ニ代ツテ此趣旨ヲ御答辯申上グロト云フコトデアリマシタノデ、私カラ御答申上ゲタイト思ヒマス、高橋君ノ此問題ニ關シテノ御質問ハ、屢承ッテ居リマスノデ、御趣旨ハ諒解致シテ居ル積リデアリマス、高橋君ノ御質問ノ趣旨ハ、相續稅法ノ二十三條ニ於キマシテ不動產船舶ト云フモノハ相續稅ヲ課セズトシテ居ル、是ハ制定當時ノ政府委員ガ説明シマシタ通り、是ハ相續稅ヲ課セズトモ、登錄稅ニ於テ千分ノ六十ト云フ高イ稅ヲ掛け居リマスカラ、ソレニ依テ他トノ權衡ヲ取リ得ル、然ニソレヲ千分ノ四十五ニ下グルト其目的ヲ達シナイ、即チ政府ハソレニ賴ルコトヲ棄テ、シマツタデノハナイカト云フ趣旨ノ御質問デアル、ソレデ誤解シテ答辯シテ居ルカラ其點ヲ考ヘテ答辯ヲスルヤウニト云フ、最後ノ御質問デアツタヤウニ承ハリマシタ、私共ガ御答辯申上ゲテ居リマシタノモ、勿論其趣旨デアツタノデアリマス、登錄稅

法ト相續稅法ノ二十三條ノ關係ハ、日
常私共ハ法律ヲ取扱フテ居ルノデアリ
マスカラ、勿論今回ノ改正ニ際シマセ
ズトモ、立法ノ趣旨ハ十分了解シテ居
ル積リデアル、而シテ今回此法律ヲ改
正スルニ當ツテモ勿論其事ニハ考ガ及
ブノデアリマス、ソレ故ニ先年相續稅
法ノ改正ノ際ニ、登錄稅法モ更ニ考慮
致サウト申シテ居リマシタガ、今回登
錄稅法ノ改正ニ當リマシテ、ソレ等ノ
點モ十分考慮致シマシタ、即チ高橋君
ノ御述ニナル通り、不動產、船舶ノ贈與
ハ相續稅法ノ二十三條ハソレヲ除外シ
テ、登錄稅ヲ課シテ居ルカラ、實際上弊
害ヲ生ズルコトハ起ラナイト云フコト
ノ趣旨ハ、相續稅法制定當時ト現在ト
ハ決シテ變ル所ハナイノデアリマス、
昨年相續稅法ノ改正ニ依テ相續稅ノ稅
率ハ引上ゲラレタコトハ、高橋君ノ御
述ニナル通リデアリマス、併ナガラソ
レモ制定當時ニ比較スルト、最高ニ於
テ同ジク致シマシタガ、其最高ハ百萬
圓カラ九十五萬圓ト記憶致シマス、ソ
レデ最高ニ達シテ居リマシタモノヲ引
上グマシタノデアリマスカラ、結局其
中途ニ於テハ緩和サレテ居リマス、ソ
レ故ニ登錄稅法ニ於ケル千分ノ六十ハ
之ヲ低下スルカ、所ガ是ハ必ズシモサ
ウデハアリマセヨノデ、千分ノ六十デ
ナクテハ逋脱防止ノ目的ヲ達スルコト
ガ出來ナイデハナイカト云フコトハ、
更ニ今日ノ現狀ニ於テ考慮シテ差支ナ

イモノデアラウト思ヒマス、制定當時ニ相續稅ヲ掛ケマセヌ代リニ、登錄稅ニ於テ高率ヲ掛ケテ相續稅ヲ免レントレバ登錄稅ガ掛ル、登錄稅ヲ掛ケラレルノガ嫌ナラバ相續稅ガ掛ル、併シ百分ノ六十ガ果シテ現狀ニ於テ適當カドウカト云フコトモ、是ハ考究ヲ要スルコト、思ヒマス、當時ハ千分ノ六十一デアツタカラ、今日千分ノ六十八動カスベカラザルモノデアルト云フコトハナイト考へマス、而シテ千分ノ六十ト云フモノハドウ云フ税率カト申シマスト、之ヲ現行ノ家督相續ニ付テ見マスト、平均ノ稅金ガ八十萬圓ニ匹敵シテ居リマスカラ、ソレ以下ノモノニ付テハ負擔ガ相續稅ヲ掛ケラレルヨリモ重クナリマス、例ヘテ見ルト一萬圓ノ財產ノ時ニハ相續稅ナラバ五十五圓、登錄稅ナラバ四百五十圓、五萬圓ノ時ニハ二百五十圓デアル、是ハ登錄稅ヲ四十五トシテノ改正案デ計算シテ居リマス、ト云フ風ニ、五十萬圓ニ到シテ初メテ幾四十萬圓デモ相續稅ハ一萬六千百五圓デアリマスガ、登錄稅ハ一萬八千圓萬圓トシテ相續稅ハ二萬三千百五圓、登錄稅ハ二萬二千五百五圓ト云フ風ニ、分カ相續稅ノ方ガ重クナリマス、五十萬圓トシテ相續稅ノ方ガ遙ニ多クナツテ居ル、ザウ云フ狀況デ、稅率ヲ六十二シテ置クト云フコトハ、其點カラ見

マシテモ、少イモノニ對シマシテハ負擔
ガ重クナルト云フコトモアリマス、ソ
レ故ニ此六十ノ稅率ハ多少下ゲルコト
ガ相續稅トノ關係ニ於テ適當デハナカ
ラウカ、即チ相續稅法ノ二十三條ノ適
用サレテ居ル有價證券、即チ不動產、船
舶ヲ除ク以外ノモノニ付テ課稅サレテ
居ル千圓當リノモノガ、十三年度ハ十
三圓十八錢、十四年度ハ四十二圓八十
錢ニ當ブテ居リマスガ、是ハ時ニ依テ勿
論相違ガアリマス、ソレ等ノ點ヲ考慮
致シマシテモ、千分ノ六十ト云フモノ
デナクテハナラヌト云フ理由ハナイヤ
ウニ思ヒマス、ソレカラ登錄稅ノ稅率
ヲ千分ノ四十五ニ下ゲルト、一部ノ富
豪ガ之ヲ利用シテ合法的脫稅ヲ企テル、
今マデ防イデ居タ牆壁ガ低クナッテ脫
稅ガ起ル、其脫稅ヲ獎勵スルコトニナ
ルノデハナイカト云フ意味モアリマシ
タガ、是ハ非常ニ多額ノ不動產ナラバ
六十ヨリ輕クナルノデアリマスガ、是
ガ總テノ少額ノモノヨリシテ課稅スル
コトニナレバ、多數ノ納稅者ニ高率ナ
ル負擔ヲ強ユル結果ニナルノデアリマ
スカラ、其點ハ却テ課稅ノ適正ヲ得ル
モノデハナイト思ヒマス、殊ニ登錄稅
法ノ贈與ノ規定ハ、獨リ相續稅ヲ掛ケ
ラルベキ親族間ノ贈與ニ限ラズシテ、
一般ノモノモ含ンデ居リマス、少額ノ
モノモ相當アリマス、ソレ故ニ是等ノ
モノ考ヘマスト、不動產、船舶ノ贈與ニ
依テ相續稅ノ逋脱ヲ完全ニ防グト云フ

コトハ、相續稅ノ或ハ最高稅率マデ
課ケルト云フコトニレバ、是ガ完全ニ
防ギ得ルト云フコトハ、是ハ論理全ニ
防グト云フコトハ困難デアリマスカラ、ソレ等ノ點ヲ考ヘマシテ、ソレ
ト次ニ申述ベマスコトモ關係致シテ來ルモノデアリマスカラ、混同シテ居ルト云フ非難ヲ受ケタノデアリマスガ、更ニモウ一步進ミマシテ、ドウシテモ考ヘナケレバナラヌノハ、千分ノ六十ト云フコトガ高イトナルト、今度相續稅ノ逋脱ヲ防グニハ、登錄稅ノ千分ノ六十ト云フモノデハソニ打突カル爲ニ、之ヲ今度千分ノ三十五ト云フ賣買ノ形式ニ藉フテ、其牆壁ニ打突カラズシテ、横道ニ行フテ逋稅ヲ圖ルト云フコトハ起リ得ルノデアリマス、千分ノ六十ト云フ牆壁ヲ設ケテ置イタ所ガ、此十ト云フ牆壁ガ高イ爲ニ其方ニ行カズシテ脇道ヲ通フテ、千分ノ三十五ヲ通フテ免レルト云フコトニナルト、千分ノ六十ヲ正直ニ——贈與ト云フコトヲ何等カノ事情デドウシテモシナケレバナラヌ、千分ノ六十ト云フ牆壁ニ打突カル時、間道ヲ通フテ千分ノ三十五ニ行クト、課稅ヲ受ケル者ノ間ニ負擔ノ公正ヲ失スルカラ、ソレハ宜シクナイ、千分ノ六十ト云フ相續稅法第二十三條ノ動スベカラザル數字ヲモット今日低メル方ガ却テ公正ナリト考ヘレト共ニ、又ソレヲ少

シク下ゲルト云フコトニ依テ、今ノ千
分ノ三十五ト、千分ノ六十トノ二十五
ノ開キデアリマシタモノヲ、之ヲ十ノ
間道ヲ通ラズトモ、正當ナ負擔ヲスル
コトニナリ、却テ負擔ノ公正ヲ得ルト
云フコトニナルノデアリマスカラ、ソ
レ等ノ點ヲ考慮致シマシテ、即チ高橋
君ノ言ハレル相續稅トノ關係モ考慮シ、
相續稅ノ關係ヲ考慮スルト共ニ、關聯
シテ起ルベキ所ノ六十ト、賣買ノ三十五
トノ間ノ關係ヲモ考慮シテ、千分ノ
四十五ト云フコトガ適當デアルト云フ
風ニ考ヘタノデアリマス

此相續稅ノ稅率ト云フモノハ下級ノ方ハ三萬圓マデノ間ト云フモノハ、家督相續モ遺產相續モ同一デアルガ、二ト云フモノガ千分ノ十五トナリ、遺產相續ノ千分ノ三十ト云フモノガ千分ノ三十五ニナツタト云フ風ニ、累進的ニ其以上ハ非常ニ上ツタノデアリマス、サヌルト相續稅ニ關聯セル登錄稅ノ稅率以下ノ相續稅率ヲ適用サル、相續財產額ハ低下スルコト、ナリ、餘程影響ヲ致スト云フコトニナル、ソレデアリマスカラ相續稅ハ改正サレタケレドモ、非常ニ大キナ資產家ヲ除イテハ、左様ナ大ナル影響ハナイト云フ御言葉ハ、ドウモ吾々受取レナイト思フ、大體富豪資產家ト稱スル程度ガ分ラヌ、ソレカラ、二十三條ニ依テ準遺產相續稅ヲ課ケタト云フ今マデノ實績ニ依ルト、十三年ハ幾ラ、十四年ハ幾ラト云フ數字ハ現ハレルケレドモ、是ハ相續稅率改正以前ノ今日ニ於テハ必シモ當筈マル、數字デハナカラウト吾々ハ考ヘル、ソレカラ登錄稅ノ方デ以テ贈與ト云フ方面、又一方ニ於テ相續稅ニ依ル方面デ登錄稅ノ方ガ餘リニ高クナルト、相續稅ノ方ト比較關係ガ取レナイト云フヤウナ御説モアツテ、色々相續稅ノ方ノハ是ハ單ナル定率稅デ、累進ノ意味ガ

ナ、相續稅ノ方ハ累進課稅ナノデ、ナル資產家ノ方面ニナリマスト云フト、其登錄稅以上ノモノガ、登錄稅ニ依リマスルト云フト、唯定率即チ一律ノ比例稅ヲ課ケラレルダケデス、而シテソレガ爲ニ累進ノ課稅ヲ茲デ免レルト云フコトニナリ、一方ニ於テ累進課稅ノ精神ト云フモノガソコデ完全ニ沒却サレルダラウト思フ、ソレデアリマスカラ今ノ御述ニナリマシタ登錄稅ト相續稅トノ數字ノ關係ト云フモノハ、餘リ意味ヲナサナイト思フノデアリマス、私ノ申上ゲテ居ル論據ヲ覆スダケノ御意見ニハナラナイ、又説明ニモ隨テナラナイト吾ミハ考ヘテ居ルノデアリマス、ソレデアリマスカラ當時ノ登錄稅ノ千分ノ六十ト云フモノハ、高過ギタト云フヤウナ御意見ハ、ドウモ吾ミハ受取ルコトハ出來ナイト思フ、サウスルト當時ノ事情ハ今ノ時勢ニ照シテソレハイカヌノデアルト云フヤウナコトヲ御述ニナルダラウケレドモ、ソレハ強辯デアッテ、矢張當時ノ事情ヨリハ今日ハ幾分カ登錄稅ヲ上ゲナケレバナラスト云フ立場ニナツテ居ルノデアル、是ハ脫稅ヲ防グト云フ意味ニ於テソレヲ御認メニナツタ上デナケレバ、サウ云フコトガヤリ得ナイ事ダラウト思フノデアリマス、ソレデアリマスカラ其當時

ニ高過ギテ居フタト云フ御議論デアリマス、是ハ其ソレハ又別ノ問題デアリマス、是ハ其ルト云フコトヲ承フテ居ルカラ、諄ク此點ニ付キ質問ヲシテ居ルノデアリマスガ、マダ細カイ點ニ於テ大分腑ニ落チナイノデアルガ、先ヅ此制定當時ノ意思ト云フモノハ間違ツテ居ル、制定當時ニ於ケル税率ノ定メ方ガ登錄稅ノ贈與ノ分ニ付テハ過重デアツタト云フヤウナコトヲ真ニ御認メニナルノデスカ○黒田政府委員 十分細カク御説明申上ゲタ積リデ居リマシタノデスガ、尙ホ御諒解ヲ得ナイコトハ甚ダ遺憾デアリマス、第一ニ税率ノ御話デアリマシタガ、是ハ先程事實ヲ實ハ申上ゲタノデアリマス、制定當時ト比較シテ何時モ高橋君ハ御述べニナリマスカラ、制定當時ト實ハ比較シテ申上ゲタノデアリマス、昨年ノ改正ハ御話ノ通り四萬圓以下ニ於テハ据置キマシテ、ソレカラ段々上ゲマシテ、サウシテ最高千分ノ百三十ト云フ制定當時ノ最高税率ト云フモノニ達セシメタノデアリマスガ、制定當時ノ最高税率ハ百萬圓以下ノ所デ千分ノ百三十二ニ達シテ居リマスガ、昨年ノ改達セシメタノデアリマスガ、制定當時正ハ五百萬圓ニ於テ百三十二ニ達シマスカラ、例ヘバ百萬圓ニ致シマスレバ制定當時ノ税率ハ千分ノ百三十デアルノデアルガ、現行法ニ依リマスレバ千分

ノ百ト云フ、千分ノ三十ダケ低イ稅率ニナツテ居リマス、一萬圓トカ五萬圓トカ云フ所モ制定當時ハ千分ノ百十七デアリマシタガ、ソレガ現行法規デハ千分ノ三十五デアリマシタガ、今日ハ千分ノ六十ト云フモノハ少リハ五百萬圓以下ノ稅ニ於キマシテハ低イ稅率デアルト云フコトヲ、實ハ御参考ニ申上ゲタノデアリマス、ソレカラ相續稅ノ方ハ比較シテ色々之數字ヲ言フガ、相續稅ハ累進稅デアッテ登錄稅ハ定率稅デハナイカ、ソレハ勿論其通リデアリマスカラ、私ハ説明ノ時ニモ實ハ申上ゲタヤウナ譯デアリマシテ、財產ノ非常ニ多イ所ニナルト云フト千分ノ六十ヲ千分ノ四十五トシマシテ、上ノ方ニナレバ登錄稅ノ方ハ輕クナリ、サウシテ下ノ方ニ行ケバ登錄稅ハ重クナルト云フコトハ、是ハ御述ニナル通りデアリマス、吾々政府モ其點ハ誤ッテ居ル譯デハナイノデアリマス、私共ノ申上ゲタノハ千分ノ六十ニシマジタ所デ、千分ノ百三十ヲ掛ケラレルヤウナ數字カラ見マスレバ、遙ニ輕イノデアリマス、千分ノ四十五ト云フノニシナシテモ斯ウ云フモノニナルト云フ譯ノ千分ノ六十ト云フモノハ今日千分ノ千分ノ六十ト云フモノハ今日千分ノ四十五ニ直シタノデアルカラ、如何ニ

述テモ制定當時ノ千分ノ六十ト云フモノハ誤ッテ居タト云フコトニナルト思フガ、サウ云フ風ニ考ヘテ居ルノカトハ千分ノ三十五ニシマシテモ制定當時ハ千分ノ二十ト云フ風ニ、制定當時ヨリハ五百萬圓以下ノ稅ニ於キマシテハ低イ稅率デアルト云フコトヲ、實ハ御参考ニ申上ゲタノデアリマス、ソレカラ相續稅ノ方ハ比較シテ色々之數字ヲ言フガ、相續稅ハ累進稅デアッテ登錄稅ハ定率稅デハナイカ、ソレハ勿論其通リデアリマスカラ、私ハ説明ノ時ニモ實ハ申上ゲタヤウナ譯デアリマシテ、財產ノ非常ニ多イ所ニナルト云フト千分ノ六十ヲ千分ノ四十五トシマシテ、上ノ方ニナレバ登錄稅ノ方ハ輕クナリ、サウシテ下ノ方ニ行ケバ登錄稅ハ重クナルト云フコトハ、是ハ御述ニナル通りデアリマス、吾々政府モ其點ハ誤ッテ居ル譯デハナイノデアリマス、私共ノ申上ゲタノハ千分ノ六十ニシマジタ所デ、千分ノ百三十ヲ掛ケラレルヤウナ數字カラ見マスレバ、遙ニ輕イノデアリマス、千分ノ四十五ト云フノニシナシテモ斯ウ云フモノニナルト云フ譯ノ千分ノ六十ト云フモノハ今日千分ノ千分ノ六十ト云フモノハ今日千分ノ四十五ニ直シタノデアルカラ、如何ニナルト云フモノハ今日千分ノ四十五ニ直シタノデアルカラ、如何ニ

述テモ制定當時ノ千分ノ六十ト云フモノハ誤ッテ居タト云フコトニナルト思フガ、サウ云フ風ニ考ヘテ居ルノカトハ千分ノ三十五ニシマシテモ制定當時ハ千分ノ二十ト云フ風ニ、制定當時ヨリハ五百萬圓以下ノ稅ニ於キマシテハ低イ稅率デアルト云フコトヲ、實ハ御参考ニ申上ゲタノデアリマス、ソレカラ相續稅ノ方ハ比較シテ色々之數字ヲ言フガ、相續稅ハ累進稅デアッテ登錄稅ハ定率稅デハナイカ、ソレハ勿論其通リデアリマスカラ、私ハ説明ノ時ニモ實ハ申上ゲタヤウナ譯デアリマシテ、財產ノ非常ニ多イ所ニナルト云フト千分ノ六十ヲ千分ノ四十五トシマシテ、上ノ方ニナレバ登錄稅ノ方ハ輕クナリ、サウシテ下ノ方ニ行ケバ登錄稅ハ重クナルト云フコトハ、是ハ御述ニナル通りデアリマス、吾々政府モ其點ハ誤ッテ居ル譯デハナイノデアリマス、私共ノ申上ゲタノハ千分ノ六十ニシマジタ所デ、千分ノ百三十ヲ掛ケラレルヤウナ數字カラ見マスレバ、遙ニ輕イノデアリマス、千分ノ四十五ト云フノニシナシテモ斯ウ云フモノニナルト云フ譯ノ千分ノ六十ト云フモノハ今日千分ノ千分ノ六十ト云フモノハ今日千分ノ四十五ニ直シタノデアルカラ、如何ニナルト云フモノハ今日千分ノ四十五ニ直シタノデアルカラ、如何ニ

述テモ制定當時ノ千分ノ六十ト云フモノハ誤ッテ居タト云フコトニナルト思フガ、サウ云フ風ニ考ヘテ居ルノカトハ千分ノ三十五ニシマシテモ制定當時ハ千分ノ二十ト云フ風ニ、制定當時ヨリハ五百萬圓以下ノ稅ニ於キマシテハ低イ稅率デアルト云フコトヲ、實ハ御参考ニ申上ゲタノデアリマス、ソレカラ相續稅ノ方ハ比較シテ色々之數字ヲ言フガ、相續稅ハ累進稅デアッテ登錄稅ハ定率稅デハナイカ、ソレハ勿論其通リデアリマスカラ、私ハ説明ノ時ニモ實ハ申上ゲタヤウナ譯デアリマシテ、財產ノ非常ニ多イ所ニナルト云フト千分ノ六十ヲ千分ノ四十五トシマシテ、上ノ方ニナレバ登錄稅ノ方ハ輕クナリ、サウシテ下ノ方ニ行ケバ登錄稅ハ重クナルト云フコトハ、是ハ御述ニナル通りデアリマス、吾々政府モ其點ハ誤ッテ居ル譯デハナイノデアリマス、私共ノ申上ゲタノハ千分ノ六十ニシマジタ所デ、千分ノ百三十ヲ掛ケラレルヤウナ數字カラ見マスレバ、遙ニ輕イノデアリマス、千分ノ四十五ト云フノニシナシテモ斯ウ云フモノニナルト云フ譯ノ千分ノ六十ト云フモノハ今日千分ノ千分ノ六十ト云フモノハ今日千分ノ四十五ニ直シタノデアルカラ、如何ニナルト云フモノハ今日千分ノ四十五ニ直シタノデアルカラ、如何ニ

述テモ制定當時ノ千分ノ六十ト云フモノハ誤ッテ居タト云フコトニナルト思フガ、サウ云フ風ニ考ヘテ居ルノカトハ千分ノ三十五ニシマシテモ制定當時ハ千分ノ二十ト云フ風ニ、制定當時ヨリハ五百萬圓以下ノ稅ニ於キマシテハ低イ稅率デアルト云フコトヲ、實ハ御参考ニ申上ゲタノデアリマス、ソレカラ相續稅ノ方ハ比較シテ色々之數字ヲ言フガ、相續稅ハ累進稅デアッテ登錄稅ハ定率稅デハナイカ、ソレハ勿論其通リデアリマスカラ、私ハ説明ノ時ニモ實ハ申上ゲタヤウナ譯デアリマシテ、財產ノ非常ニ多イ所ニナルト云フト千分ノ六十ヲ千分ノ四十五トシマシテ、上ノ方ニナレバ登錄稅ノ方ハ輕クナリ、サウシテ下ノ方ニ行ケバ登錄稅ハ重クナルト云フコトハ、是ハ御述ニナル通りデアリマス、吾々政府モ其點ハ誤ッテ居ル譯デハナイノデアリマス、私共ノ申上ゲタノハ千分ノ六十ニシマジタ所デ、千分ノ百三十ヲ掛ケラレルヤウナ數字カラ見マスレバ、遙ニ輕イノデアリマス、千分ノ四十五ト云フノニシナシテモ斯ウ云フモノニナルト云フ譯ノ千分ノ六十ト云フモノハ今日千分ノ千分ノ六十ト云フモノハ今日千分ノ四十五ニ直シタノデアルカラ、如何ニナルト云フモノハ今日千分ノ四十五ニ直シタノデアルカラ、如何ニ

アルノニアマシテ、一概ニ税率ノ
デモ比較ハ出來マセヌガ、要スルニ千
ニ防止シ得ルトハ考ヘマセヌ、併ナガ
ラ此方ハ寧ロ從來ヨリハ、稍緩和シテ、
適當ナル課稅ノ負擔ヲサセルコトガ出
來ルト云フ風ニ考ヘテ居リマス

○高橋委員 ドウモハッキリシナイデ
スガ、是バカリデ暇ヲ取ルト云フコト
ハ非常ニ遺憾デスガ、モウ少シシカリ
シタ答辯ヲシテ戴キタイト思フ、七年
デ以テ無利子デ年賦ニナルト云フヤウ
ナコトハ、十萬圓ニ付テ家督相續稅ノ
後ノ低大方ニ致シテモ一割宛違フテ行
クノデス、ソレデスカラ是デハ二十萬
圓以上ノ人ミト云フモノハ、全ク公々
然ト公正ノ手續ニ於テ登錄稅ヲ納メテ、
サウシテ相續稅ト云フモノハ免レルコ
トガ出來ル、今度ノ方ニナリマスト今
マデハ千分ノ六十ト云フモノデアツテ、
相續稅ト云フモノハ累進課稅ノ率ガ低
イカラシテ、中々餘程ノ資產家デナケ
レバサウ云フ 逋脱ノ途ハナカツタノデ
アリマスガ、今日ハ中通リノ資產家ト
云フモノハ皆サウ云フコトガ出來ルノ
デアリマス、私完全ト云フコトヲ申上
ゲタカラ、ソレデ完全ト云フ點ニ大變
力ヲ入レテ申サレタヤウデアリマスガ、
ソレヲヤラウト思ヘバ二十萬圓以上ノ
者ハ皆合法的ニ脱稅ガ出來ル、此二十
萬圓以上ノ者ト云フヤウナ人々ハ、七

年間ニ分割シテヤルト云フト利子ダケハ利得トナル、併シ之ニ對シテハ相當ノ不動産ナリ何ナリノ擔保ヲ入レナケリカラデモ融通シテ、一遍ニ登錄稅ヲ納メマシテモ、利子ノ差ハ非常ニ大ナルモノデナイダラウト思ヒマス、ソレデスカラ五十萬圓六十萬圓以上ノ人ニハ、公々然ト其合法的脫稅ヲヤツテ行クト云フコトガ出來得ルノデアリマス、勿論此國家ニ忠實ナル人デ、法律ニ是非トモ遵奉シナケレバナラヌト云フ、良心ヲ持合セタ人ノミガ相續稅ヲ納メルコトニナツテ、其他ハ皆此合法的脫稅ノ下ニ登錄稅ヲ以テ財產權ノ移轉ヲヤツテ行クト云フコトニ相成ルト思フノデアリマス、私ノ言フコトハ極端ナコトデハナイ、當リ前ノコトデアル、私ハ茲デ以テ五十萬圓ノ財產ヲ子供ニ譲ルト云フ場合ニ、相續稅ヲ以テヤルナラバ五十萬圓ハ千分ノ八十、一萬圓ニ付テ八百圓ノ割合デ以テ直グ納メテ行カナケレバナラヌト云フ場合ニ於テ、登錄稅トナレバ千分ノ四十五デ行ケルトナレバ、何モ相續ノ手續ナドヲシナイデ、寧ロ譲與ノ手續ヲシテ登記スルト云フコトハ人情ノ常理デアツテ、此法律ハソレヲ認メテ居ル、何モ相續ニ依ラナケレバナラヌト云フコトハナイ、サウデスカラスウ云フ場合ニソレハ無論相續開始前三年以内云々トカ何トカノ場合ニ、

斯ウシタモノハ相續ト看做ストカ云フ
ヤウナ條件ハアリマセウケレドモ、サ
ウ云フコトニナリマスト豫メ三、四年
ノ前ニ此相續稅ノ條件ニ當嵌ラナイヤ
是ハ不思議デナイト私共ハ考ヘル、之
ヲ防止スルニハ極度ノ處マデ登錄稅ヲ
上セナケレバナラヌト云フヤウナ御考
ガアルカモ知レスケレドモ、何モ極端
ナル非常ニ大ナル資產家ヲ目標トシテ
バカリモ居ラレマセヌ、吾々ハサウ云
フモノヲ防止スルナラバ、最高ノモノ
モ登錄稅ヲ以テヤツタ方ガ宜イダラウ
ト思フ、而シテソレノ間ニ區別ヲ定メ
ルコトモ出來マセウ、登錄稅モ一律ニ
スル、登錄稅デアルカラ定率稅ニシテ
置カナケレバナラヌト云フコトハナイ、
是モ累進ノ課稅ノ精神ヲ認メテ、無償
幾ラダト云フヤウニ規定シテモ宜カラ
讓與ニ對シテハ甲乙丙丁ト云フヤウニ
分ケテモ宜カラウ、何ハ幾ラ、何以上ハ
幾ラダト云フヤウニ規定シテモ宜カラ
ウト思フ、サウシテ先程カラ親族間ノ
ミデナクテ、其他一般ノモノモ登錄稅
デ押ヘルノデアルト云フコトヲ言ハル
ルガ、親族間ノ贈與コソ是ハ多少理窟
モアリマセウ、併ナガラ他人ニ只ヤル
ト云フモノニ對シテ、只貰フ方ノコト
ヲ考ヘタナラバ、ソレヲ只貰フナラバ
全部稅金ニ納メテモ悔シクハナカラウ
ト思フ、ソレデスカラ一般ノ者ナドト
云フ、公共的ノモノデアツタナラバ、無
論無稅ナンデアル、公共的ノモノデナ

クシテ他人ノ緣故ノ無イ者ニ物ヲヤルト云フ、只貰フト云フ者ニ對シテ何モ情狀ヲ酌量シテ、之ニ減稅ノ恩典ヲ與ヘルト云フコトハ無用ノ事ダラウト思フ、サウ云フヤウナモノデアリマスルカラ、私ハ登錄稅ト云フモノハ矢張曩ニ編成ニ當ツテ百圓ニシタ方ガ宜イト云フ御論ガアツタト云フコトヲ、新聞紙上デ六月頃デシタカ七月頃デシタカ、吾々見タコトモアリマスガ、是ハ理由ノ明ナコトデアル、ソレデスカラ只物ヲヤルト云フコトハ相續以外ニ付テハサウ大ナル考慮ヲ拂ハレヌデモ宜カラウ、公共ノ性質ヲ帶ビタモノハ無稅ニシテアル、サウ云フコトナラバ何等斯ウ云フ風ニ只物ヲ貰フト云フヤウナ行爲ニ對シテハ、恩典ヲ與ヘル必要ハナカラウト吾々ハ考ヘテ居ルノデス、デ之ニ付テ質問應答シタ所ガ先ノヤウナ工合ニ、ソレハ御前ノ見込違ヒデ意見ノ相違ダト云フヤウナコトヲ言ハレテハ、一向何モナラナイカラ、是ハ私ハ文書ニ認メテ質問應答ヲ致シタイト思ヒマス

○黒田政府委員 一寸……

1

2

三

1

ハソレニ矢張簡明ニ事實ヲ御答ニナツテ、吾ニガ之ヲ決定スル參考ニ供セラ
レル方ガ宜カラウト思ヒマス、モウ大體ハ兩者ノ答ヘル所問フ所ハ分リマシ
タカラ、サウ願ヒタイト思ヒマスガ……
○黒田政府委員 文書デ御提出ニナル
サウデアリマスカラ、ソレニ對シテハ
文書デ御答ヲ申上ゲルコトニ致シマス
ガ、唯其中ニ少シ今迄ニ御述ニナツタコ
ト、違フ點モアリマスカラ、一言申上
ゲテ置キタイト思ヒマス、其第一ガ累
進率ノコトデアリマスルガ、二十萬圓
ト云フコトヲ頻ニ御話ニナリマシタ
ガ、此點ハ先程モ申上ゲマシタ通り、相
續稅ハ累進ニナッテ居リマス結果トシ
テ、二十萬圓ノ稅率ヲ以テ直ニ此稅率
ニスルコトノ出來ナイコトハ、御承知
ノ通リデアリマスガ、五十萬圓ニ至リ
マシテ四十五ト致シマスト、相續稅ガ
二萬三千百五圓デアリマス、登錄稅ガ
二萬二千五百圓デアリマス、是ハ登錄
稅ノ方ガ少シ安クナル、五十萬圓デア
リマス、正確ニ言ヒマスレバ四十七萬
六千圓ノ財產ニシテ初メテ登錄稅ト相
續稅ト同一ノ稅率ニナル、五十萬圓以上
ニナツテ初メテ幾分カ登錄稅ノ方ガ輕ク
ナルノデアリマスカラ、五十萬圓以上
ノ人ガ日本ニ於テ多數ヲ占メテ居フテ、
是等ノ者ガ一番多イト云フ風ニ聞エマ
スル御議論モアリマシタガ、私共ハ其
點ハ如何デアラウカト考ヘルノデアリ

モ二萬何千圓ニナル、斯ウナレバ七年
年賦ト云フコトニナリマシテ、相當利
益ガアリマスルガ、五十萬圓ヨリモウ
少シ上グタ所ニ於テ初メテ——ソレ等
ノ金利モ換算スレバ正確ニ出ルカモ知
レマセヌガ、モウ少シ上ツタ所デ同ジニ
ナツテ來ル、五十萬圓以上ニナレバ登録
稅ノ方ガ利益デアリマス、ソレヲ防グ
爲ニ稅率ヲ重クスルコトニナルト、五十
萬圓以下ノ者ニ對シテハ非常ニ多イ
負擔ヲ強ユルコトニナル、即チ少資
本家ノ讓與シナケレバナラヌ何等カノ
事情アル時ニ、非常ニ重キ負擔ヲシナ
ケレバナラヌコトニナルノデアリマ
ス、是ハ私ハ考ヘナケレバナラヌト先
程モ申上ゲタノデアリマス、ソレカラ
次ニ親族間デナイ場合ノ贈與ト云フモ
ノハ、決シテ下グル必要ハナイデハナ
イカト云フコトデアリマス、是ハ御說
ノ通リト思ヒマス、併ナガラ親族間以
外ノ者、親族間ノ贈與ト云フモノヲ高
率ニ致シマスルト云フコトハ、是ハ唯
徒ニ法ノ上ニ文面デ體裁ヲ止ヌルノニ
過ギナイノデアリマシテ、親族間ナラ
バ賣買ノ形ヲ取ルナラバ容易イノデア
リマス、此親族デアリマスガ、他人トノ賣
買ニハ千分ノ三十ノ適用ヲ受ケルト同
ジヤウニ、法律ノ上ノ適用ヲ受ケルノ
デ其實ニ於テハ賣買ノ場合ハ千分ノ三
ト云フコトデアリマスガ、他人トノ賣

○武藤委員長　今日ハ午後ハ速記ガ差
支ヘマスカラ、モウ三十分バカリ致シ
タイト思ヒマス、尙ホ此機會ニ各委員
カラ質問漏レニナッテ居リマス中デ大
切ナ點ガアリマスカラ、當席カラ極ク
簡単ニ尋ネテ置キマス、印紙稅法ノ中
ノ、第五ニ傭船契約書ト貨貸借トノ權
衡ハドンナ風ニナッテ居リマスカ、政府
デ御調ベニナッタカナラヌカ、傭船契約
ト貨貸借トノ權衡ハ如何ニ、ソレカラ尙
ホ第四條ニ三十幾ツ茲ニ列舉シテアル
申ニ、保證金ノ納入書ニ印紙ヲ用キナ
イコト、又報償契約書ニ印紙ヲ用キナ
イ、賣買契約書ニ印紙ヲ用キナイコト
ニナッテ居リマスガ、是ハドノ點カデ之
ヲ含ンデ居ルカ含ンデ居ナイカ、保證
金ノ納入ト云フコトハ各總テニ對シ
テ、官署其他ニ對スル報償契約書ニハ
例ヘバ辯護士ガ報酬ノ契約ヲシタ如キ
モノ、其他ヲ言フノ、ニアリマス、ソレカ
ラ賣買契約ハ一般ノ賣買契約ヲ指スノ
デアリマスカ、是等ハ重要ノ印紙貼用
ニ付テノ事柄デハナイカト思ヒマス
ガ、茲ニ三十幾ツノ中ニ見當ラヌヤウ
デアリマスガ、是等ハ政府ハ立案ノ時
分ニ御研究ニナッタノデアリマスカ、御
研究ニナッテモ必要ナシトシテ載セナ
カタタノデアリマスカ、念ノ爲ニ承ツテ置
キマス

コトヲ原則ニ致シマシテサウシヲ、課税シナノモノダケヲ五條ニ規定致シマシテ、茲ニ拔カレタ以外ノモノハ總テ課税ヲスル、何處カニ入ルト云フ仕組ニ致シテ居リマス、其中デ著シイモノハ特定ヲ致シマス、サウデナイモノハ總テ前各號以外ノ證書ト云フ中ニ包含セシムル積リデアリマス、唯賣買契約ノ中デ不動產ニ關シマスルモノニ付キマシテハ、一號ニ依リマシテ課税ヲ致スコトニ相成ルノデアリマス

○武藤委員長 尚ホ一寸御尋不致シマスガ、此報酬契約書ト賣買契約書トカ云

モノデアルニモ拘ラズ、前各號以外ノ證書ト云フ中ニ含マレテ居ツテ、茲ニ明ニ

明記ナレナインハ、何カ理由ガアフタノ

デアリマスカ、是デ宜イトシテ立案ニ

ナツタノデアリマスカ、尚ホ承リマス

○黒田政府委員 是ハ特ニ列舉致サナ

クテモ宜イト考ヘタノデモアリマセヌ

ガ、大體現行ニ規定シテ居リマスルモノハ既ニ馴レテ居ルノデアリマスカラ、

此中カラ免稅ニナルモノダケヲ抜イテ

アリマス、ソレカラ比例稅カラ定額比

例稅ニ直シマシタモノヲ入レル程度ニ

止メマシテ、其他ノモノニ付キマシテ

ハ先づ現行ノ儘ニシヤウト云フ考デア

リマシタ

○武藤委員長 尚ホ念ノ爲ニ承ツテ置

キマスガ、課稅率ハ現行ノ通リデ保證

金納入トカ、或ハ報酬契約トカ、賣買契

約トカ云フモノハ現行ノ儘デ宜シト云フ考デアリマスカ

○武藤委員長 私ノハ是ダケデス、此

機会ニ猪野毛君ノ登錄稅法中改正法律

案御提出ノ理由ヲ簡單ニ承リマス

○猪野毛利榮君 簡單ニ理由ヲ申上ゲ

タイト思ヒマス、即チ登錄稅法中ニア

リマスル、土地ヲ交換ヲシマス時ニ於

テハナラヌノデアリマスガ爲ニ、非常

ニ登錄稅ガ高イ、此爲ニ其交換ガ便法

ナリト知リツ、モ、容易ニ行フコトガ

出来ヌ、斯ウ云フ今日ノ狀態ニナツテ居

リマスルガ爲ニ、全國ノ農會ナドニ於

キマシテモ、是ガ方々デ問題ニナツテ居

ルノデアリマス、ドウモ日本ノ農業組

織ハ小農デアリマスルノト、又山間部

ノ耕作デアリマスルガ故ニ、地主ガ方

方ニ點々シテ土地ヲ持ツテ居リマス、デ

スカラ肥料ヲ運搬スル、或ハ耕作ヲス

多クテ困ルノデス、特ニヒドク感ジテ

居リマスルノハ、勞力問題デアリマス

ノハ既ニ馴レテ居ルノデアリマスカラ、

此中カラ免稅ニナルモノダケヲ抜イテ

アリマス、ソレカラ比例稅カラ定額比

例稅ニ直シマシタモノヲ入レル程度ニ

止メマシテ、其他ノモノニ付キマシテ

ハ先づ現行ノ儘ニシヤウト云フ考デア

リマシタ

○武藤委員長 尚ホ念ノ爲ニ承ツテ置

キマスガ、課稅率ハ現行ノ通リデ保證

金納入トカ、或ハ報酬契約トカ、賣買契

約トカ云フモノハ現行ノ儘デ宜シト

云フ考デアリマスカ

○武藤委員長 私ノハ是ダケデス、此

ス、便法デアルト云フコトハ知リツ、

亦千分ノ十ヲ取ラレル、町村附加稅ト

シテ亦千分ノ十ヲ取ラレル、合計千分

ト云フモノヲ、土地賣買ノ形式ニ依テ

取ラレル、隨テ府縣稅ニ於キマシテモ、

モ、登錄稅ニ於キマシテ千分ノ三十五

ト云フモノヲ、土地賣買ノ形式ニ依テ

取ラレル、隨テ府縣稅

買ニ依テ登錄稅ヲ徵サレルコトニナリ
マス爲ニ、折角適當ナ所ト思^タテモ登錄
稅ノ爲ニ制セラレテ之ヲ行フコトガ出
來ヌノデアリマス、此點ニ付キマシテ
今猪野毛君ノ御説明ハ洵ニ適當ナコト
ト考ヘルノデアリマス、政府ニハ是等
ノ點ニ付キマシテ從來考慮サレタコト
ガアリマセウカ、又本案ニ對シテ如何
ナル御所見ヲ御持チニナッテ居リマス
カ、之ヲ御尋致シタイト思フノデアリ
マス、ソレカラ提案者ニ御尋致シマス
ガ、此交換地ガ一方ガ半分ニ充タナイト
云フト是ハ交換デナイト云フヤウニ扱
云フト云フ、此二分ノ一ト云フノハ一體
ドウ云フ所デ斯ウ云フ分界ヲ立テラレ
ルノカ、實際ニ其目的ニ對スル交換ナ
ラバスウ云フ標準ガナクテモ宜イヤウ
ナ感ジモ致シマスガ、只今ノ御説明デ
ハ少シ諒解ガ致シ惡イ點モアリマスカ
ラ、尙ホ御説明ヲ願ヒタイノデアリマ
ス

○黒田政府委員 本案ノ如キ場合ニ於

キマシテ免稅ヲ致スコトニ付キマシテ

ハ昨年モ斯ウ云フ問題ガアリマシタガ、

今回ノ改正ノ際ニ於キマシテモ考究ヲ

致シタノデアリマス、併シ改正案ニ之

ヲ戴セマセナカツタノハ、即チ本案ニ對

シマシテモ遺憾ナガラ御同意ガ出來ナ

イ結果ト相成ルノデアリマス、只今丹

下サンノ御述ニナリマシタヤウニ、斯

ノ如キ場合ニハ多ク耕地整理ノ方法ニ

依リマスト云フコトニナリマスレバ、

○武藤委員長 本案ニ就テ御質問ハア
リマセヌカ——別ニ御質問ガゴザイマ
セヌケレバ、今日ハ是デ散會致シマス
ト云フ場合ニ於キマシテハ、此所有權
ト考ヘルノデアリマス、登記所ニ於キマ
シテモ困難デアルト云フヤウナ關係カ
ラ致シマシテ、斯ノ如キ場合ハ耕地整理
事業ニ依テ多ク爲サレル、ソレ以外ノ
場合ハ只今申ス通り困難デアリマス、
是ハ遺憾ナガラ採用ガ出來ナイト云フ
結果ニ相成^タテ居ル次第デアリマス
○猪野毛利榮君 交換ヲ致シマス相互
ノ農耕地間ニ於キマシテ、御互ニ二分
ノ一ニ達セヌ時ハ交換ト認メズト云フ
コトニ付キマシテ、二分ノ一トハ如何
ナル點ヲ根據ニ致シタカト云フ御尋ノ
如ク承リマシタガ、一分ノ一デハ^ツキリ
ナクチャナラヌト云フ別ニ科學的ノ根
據ガアルノデハナイ、唯常識的ニ又實
際上カラ考ヘテ見マシテ、苟モ土地ノ
交換ヲ爲ス場合ニ於キマシテ、二分ノ
一ニモ達セズシテ交換ヲ行フト云フコ
トハ、是ハ當識上カラデモ、事實ノ上カ
ラデモアルベキコトデナイ、斯ウ云フ
意味ニ於キマシテ二分ノ一ト云フ規定
ヲ致シタノデアリマス、左様御承知ヲ
願ヒマス

午後零時三十一分散會